

10年以上かけて事務管理システムをつくり込み、 営業活動等の迅速化・効率化を実現

事業内容

紳士・婦人服地、ニット服地、自動車用シート地等の製造

■ I T 導入の目的、ねらい

当社では、服地のデザインに合わせて多種多様な糸から必要な糸を選択し、糸、染色、整理等の発注先を決めて見本を作成し、受注先のアパレルメーカーに対して営業を行うが、必要となる事務作業を手作業で行うと時間がかかり、また、複雑であるためミスが発生しやすい。とりわけ在庫の確認は時間を要するため、クイックレスポンスを実行するうえで障害となっていた。

これらの事務管理を迅速化、効率化するため、事務管理システムを導入した。

■ I T 導入の経緯

当社の事務管理システムの導入は、社長が I T にたいへん熱心で、他社より早く取り組みようという考えから、13年前から導入しはじめた。生産業務ではニット事業部の編機がコンピュータ化されていたため、コンピュータへの抵抗感は少なく、システム化に取り組むことができた。

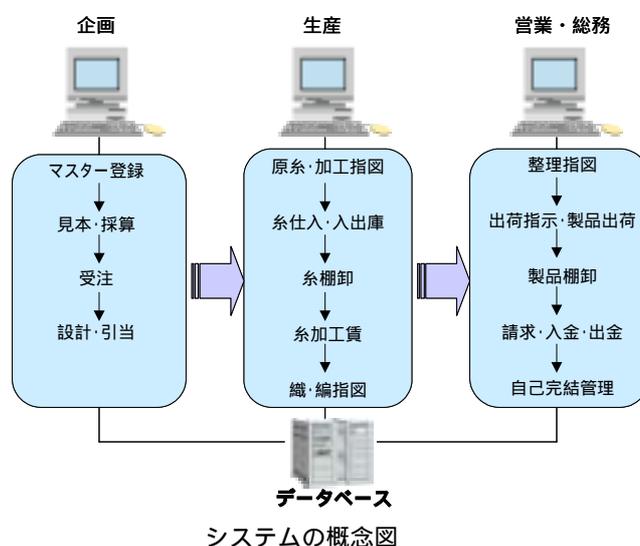
■ I T の導入状況と費用

事務管理システムのソフトは、自社で作成することとした。そこで、受注、発注、生産、

納品、売上等の管理業務に必要となる自社ソフトを順次作成し、入力したデータは、データベースで一元管理するシステムを整備した。

この事務管理システムは、社内 LAN を使って運用しており、事務員が自分のパソコンで入力、出力している。この13年間で、ソフト、ハードに対して多大な投資を行った。

また、システムの維持、管理は3名の社員が行っている。



■ I T 導入時の問題とその対応策

事務管理システムを導入するにあたり、現場から「余分な仕事が増える」「入力するのが面倒」という反対の声があった。しかし、使っていくうちに利便性が理解され、反対意見はなくなった。

また、糸の取引単位は重量(kg)と長さ(m)の2種類があり、単位が統一されていないため在庫等の管理において数量が合わないという問題も発生した。これは完全に一致させることはできないが、計算上の単位を統一することで対処している。

■ IT活用の具体的効果

このシステムを導入したことにより、いちいち書類を引き出したりすることなく、パソコン上で全て確認できるようになり、営業において迅速、正確な提案ができるようになった。導入前は、この事務処理を行うために営業マン1人に女性事務員1人がついていましたが、システム導入後は女性事務員が3分の1から4分の1で対応できるようになった。

また、在庫確認などの各種事務処理が迅速に行えるようになった。例えば支払い伝票の作成はかつて1ヶ月ほどかかっていたが、現在は1週間でできるようになった。

さらに、個人毎に営業成績を計算できるため、営業管理、人事管理にも活用している。

現在でこそ大きな効果を得られるようになったが、経営的な効果を得られるようになったのは4～5年前からであり、それまでは事務処理に利用しているだけという面が強かった。時間をかけてねばり強くシステムを充実、改善することで、経営的に有効な活用ができるようになったと考えている。

■ 今後のIT関連計画

○モバイル化への対応

事務管理システムは、営業活動にとって重要なツールとなっている。しかし現状では、社内にはなければ利用できない状況にある。今後は、営業マンが出先からサーバにアクセ

スし、在庫などのデータを引き出せるよう、モバイル対応を進めたい。

○需要予測システムの開発

ファッション業界は精度の高い需要予測を行うことができれば、販売ロスが減少し、在庫を軽減することができる。そのため、需要予測システムの開発を進めており、来年3月に完成する予定である。このシステムはホームページに見本情報を掲載し、その反応をもとに2ヶ月後の受注を予測するものである。

○販売サイトの構築

現在、製品販売を行う自社サイトの構築を進めており、来年1月に開設する予定である。

○縫製業との連携システム

岐阜県の縫製業者と自社をLANでネットワークして、三次元CADデータ等を交換、共有するシステムを開発しており、来年3月に完成する予定である。

■ 今後ITを導入する企業へのアドバイス

✓ IT導入を経営的にメリットのあるものにするためには、時間をかけてねばり強く取り組む必要がある。

✓ ITの導入推進には社長の熱意と理解が不可欠である。

会社名 いわなか株式会社

業種 織物業

設立年月 昭和38年12月

資本金 2億1938万円

従業員数 140人

所在地 安八郡輪之内町里100

URL <http://www.iwanaka.co.jp/>